

[09_02]情報処理教育広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/6768580>

出版情報：情報処理教育広報. 9 (2), 1986-12. Educational Center For Information Processing,
Kyushu University

バージョン：

権利関係：



九州大学情報処理教育センター



No. 19

昭和61年 7月 4日発行

1. 7月～9月の運転時間について

7月～9月の運転時間は次のように予定しています。

(1) 7月11日(金)～ 7月31日(木)

曜 日	箱崎地区センター 病院地区端局	六本松地区端局	文系地区端局
月	13:00～16:30	13:00～16:30	13:00～16:30
火～金	9:30～16:30	9:30～16:30	9:30～16:30
土	9:30～12:00	9:30～12:00	9:30～12:00

(2) 8月 1日(金)～ 8月 9日(土)

曜 日	箱崎地区センター 病院地区端局	六本松地区端局	文系地区端局
月	13:00～16:30	休 み	13:00～16:30
火～金	9:30～16:30	休 み	9:30～16:30
土	9:30～12:00	休 み	9:30～12:00

(3) 8月10日(日)～ 8月27日(水)

サービス停止。

(4) 8月28日(木)～ 8月31日(日)

曜 日	箱崎地区センター 病院地区端局	六本松地区端局	文系地区端局
月	13:00～16:30	休 み	13:00～16:30
火～金	9:30～16:30	休 み	9:30～16:30
土	9:30～12:00	休 み	9:30～12:00

(5) 9月 1日(月)～ 9月10日(水)

曜 日	箱崎地区センター 病院地区端局	六本松地区端局	文系地区端局
月	13:00～16:30	13:00～16:30	13:00～16:30
火～金	9:30～16:30	9:30～16:30	9:30～16:30
土	9:30～12:00	9:30～12:00	9:30～12:00

(6) 9月11日(木)～ 9月30日(火)

曜 日	箱崎地区センター 病院地区端局	六本松地区端局	文系地区端局
月	13:00～18:00	13:00～17:50	13:00～16:50
火～金	8:30～18:00	8:30～17:50	9:00～16:50
土	8:30～12:00	8:30～12:00	9:00～12:00

九州大学情報処理教育センター

No. 20

昭和61年 9月25日発行

昭和61年 9月25日発行

10～11月の運転時間は次のように予定しています。

TSS端末などの入れ替え、センター4階の講義室、実習室、オープン端末室の床工事、および学期の切り替え作業のために一般利用者は使用できません。

曜 日	箱崎地区	病院地区端局	六本松地区端局	文系地区端局
月	休み	13:00~16:50	13:00~16:50	13:00~16:50
火~金		8:30~16:50	9:00~16:50	9:00~16:50
土		8:30~12:00	8:30~12:00	9:00~12:00

曜 日	箱崎地区センター 病院地区端局	六本松地区端局	文系地区端局
月	13:00~18:00	13:00~17:50	13:00~16:50
火~金	8:30~18:00	9:00~17:50	9:00~16:50
土	8:30~12:00	8:30~12:00	9:00~12:00

2. TSS端末などの更新について

運転時間の項でも述べたように情報処理教育センターのTSS端末などを更新します。またセンター4階の講義室、実習室、オープン端末室は、ケーブルやコンセントが剥き出しで邪魔な上に危険でしたので床をフリーアクセスにします。新しいTSS端末はすべてカラーで日本語処理と図形処理が可能です。それに伴ってODM（日本語処理）、EGRET/DRAW（図形処理）、ANALYST（統計データ処理）などの新しいソフトウェアを、準備ができしだい一般に提供して行く予定です。

また、これまでドットプリンタとX-Yプロッタを出力装置として提供していましたが、今回の更新でレーザービーム方式のオフィスプリンタに統一します。このオフィスプリンタは普通のコピーと同様にカット紙を使用し、英数字だけでなく日本語や図形を高速に印刷することができます。

3. 前期から後期への切り替えについて

運転時間の項でも述べたように前期から後期への切り替え作業を行います。それに伴って、前期だけの講義として登録されている課題番号（3桁目がXの授業用と学生用）とそれに属するデータセットを消去しますので、10月20日（月）からは使用できなくなります。教官の方で前期に作成したデータセットを後期も続けて使用したい場合は、教官個人の課題番号（2桁目がZ）へ複写しておくか、9月30日（火）までにTOMTコマンドを使用してMTにデータセットを吸い上げ、TODAコマンドで10月20日（月）以降にディスクへデータセットを戻して下さい。今回はTSS端末などの更新予定がセンター4階の床工事との関係でなかなか確定しなかったため連絡が遅くなり時間的な余裕がありません。どうしても都合が悪い利用者はセンター受付に、遅くとも10月14日（火）までにご連絡ください。

現在消去予定の講義IDは次の通りです。

AB、AC、EA、EB、EF、EI、EK、GA、GB、GC、GD、GE、GF、HA、MA、SA、TA、TB、TC、TD、TE、TF、TH、TN、TP、TV

4. 後期の授業の登録受付について

昭和61年度後期の授業登録を受け付けます。昭和61年度後期に情報処理教育センターを利用して授業を行う予定の教官は10月17日（金）までに情報処理教育センター受付に申請書を提出してください。10月20日（月）から使用できるように授業用の課題番号（3桁目がX）を発行します。なお授業計画を提出していないけれども情報処理教育センターを利用して新たに授業を行いたい場合は情報処理教育センター受付にご相談ください。

なお、このセンターニュースはODMで作成し、オフィスプリンタに出力したものです。



1. 計算機システムの変更について

これまで広報やセンターニュースでお知らせしてきた通り、昭和61年10月から計算機システムをFACOM M-360 (20MB) からFACOM M-380Q (48MB) に変更してサービスを行います。これに伴ってTSS端末も全部最新のもの (F6683A) に更新しています。従来のTSS端末 (F6262R) との相違は次の通りです。

- ① 新端末はすべてカラーで日本語と図形の表示が可能です。
- ② キーボードの形やキーの数・配置が異なります。
 - ・ 計算機に割込みをかけるときに旧端末ではALTとPA1 (DUP) キーを同時に押していましたが、新端末ではPA1キーだけ押せば良いようになりました。
 - ・ 画面エディタなどで画面を再表示するときに旧端末ではALTとPA2 (FIELD MARK) キーを同時に押していましたが、新端末ではPA2キーだけ押せば良いようになりました。
 - ・ 旧端末のENTERキーが新端末では実行キーという名前に変わっています。

新しい端末を説明するためのOHPシートを六本松地区と文系地区の端局、およびセンター4階講義室と実習室の教卓に準備してあります。

- ③ 新端末は電源スイッチを入れて使用可能になるまで約70秒かかります。しばらくお待ちください。また端末の本体にフロッピーを2つセットできるようになっていますが、機番'0'の方にシステムフロッピーが入っています。このフロッピーを取り出さないように注意してください。
- ④ 新端末は単独で日本語入力が可能ですが、そのためにはカナ漢字変換のための辞書フロッピーが必要です。その場合に辞書フロッピーは単語登録機能やカナ漢字変換に学習機能があることなどを考慮すると一人1枚づつ持つ必要があります。現時点では辞書フロッピーを一人1枚づつ提供する方法がありませんので、当面は単独で日本語入力を可能にする機能は使用できません。なるべく早い時期に辞書フロッピーを個人ごとに提供できるよう現在検討中です。

ソフトウェアも最新レベルのものに変更しましたが、言語系など従来から提供していたソフトウェアについては利用者から見える外部仕様に変更はありません。TSS端末の相違点 (上述の②) に注

意していただければ従来通りの使い方で利用できます。

六本松地区、病院地区、および文系地区については10月20日から新端末でサービスを開始しています。箱崎地区については4階講義室などが床工事のために11月1日からサービスを開始する予定です。例年教官のための講習会を開催していますが、最近は募集してもほとんど参加希望者がありませんので、箱崎地区では今年度はとりあえず講習会を行いません。新端末のマニュアルはセンター6階入出力室に準備してありますので、各人で時間の都合がよいときに新端末を試用し、質問等がありましたら情報処理教育センター受付まで連絡していただくようにお願いします。

なお今後センターで新しく提供するソフトウェアについては必要に応じて個別に講習会を開催する予定です。

2. 新しい利用の手引きについて

学生用の「利用の手引き」（第五版）ができました。計算機システムやTSS端末などの変更に伴って内容が第四版からかなり変わっています。新しい「利用の手引き」は後期の授業登録時に配布しますが、通年で登録されている授業についても配布する必要がありますので、該当する担当教官か補佐職員の方は情報処理教育センター受付まで取りに来てください。

3. マークカードの変更について

計算機システムの変更に伴って、学生の課題登録用マークカードが後期の登録分から変更になっています。これまでのマークカードが余っていてもそれを使用せずに、必ず情報処理教育センター受付で新しいマークカードを請求して使用してください。

4. 利用上の制限について

昭和61年度後期から計算機システム利用上の制限が次のようになっていますのでご注意ください。

(1) 課題番号あたりの制限

項 目	学 生	教 官
点 数	2 0 0 0 0 点	5 0 0 0 0 点
データセット個数	2 0 個	3 0 個
データセット容量	1 0 4 0 K B	6 5 0 0 K B

点数はCPUが5点/秒、端末接続時間が1点/分で計算します。計算機システムがM-360からM-380QになってCPUが2.2倍速くなっていますが、点数の制限は変更していませんので従来の2倍程度の計算ができることになります。

(2) ジョブ当たりの制限

種 類	CPU 標準値 (分)	CPU 最大値 (分)	メモリ 標準値 (KB)	メモリ 最大値 (KB)	出力枚数	接続時間 (時間)
T S S	2	—	2 0 4 8	3 0 7 2	5 0	3
F I B	1	3	2 0 4 8	3 0 7 2	5 0	—

リージョンサイズの標準値を800KBから2048KB、最大値を2048KBから3072KBに変更しています。

5. 計算機システム接続用電話回線の変更について

最近CCITTのV. 22規格のモデムが急激に安くなったこともあって、センターの計算機システム接続用電話回線をV. 21の300bpsからV. 22bisの1200/2400bpsを中心にしたものに変更します。新しい電話番号は次の通りです。これまで300bpsの音響カップラで情報処理教育センターを使用されていた方は注意してください。

種 別	電話番号
300bps (V. 21)	内線 2660 局線641-4538
1200/2400bps (V. 22bis)	内線 18 (4回線)
1200bps (Vadic)	内線 2659

なお情報処理教育センターでは電話回線数の都合もあって、昭和62年4月からはV. 21規格による300bpsとVadicによる1200bpsのサービスは廃止する予定です。予めご了承ください。また今回のTSS端末の変更に伴って専用端末は全端末で日本語表示が可能になりました。今後センターでサポートして行くソフトウェアでメッセージを日本語化できる部分については積極的に日本語メッセージに切り替えて行く予定です。その場合に電話回線についてはメッセージを従来通り英語で表示するなどの対応ができない場合もでてくると思いますが、専用端末の方を優先しますのでご了承ください。

6. プリンタ機番の変更について

従来のドットプリンタに代ってオフィスプリンタを導入しました。これに伴ってDSPRINTコマンドで指定するプリンタの機番が変更になっています。プリンタ機番の最初の1文字が場所を表わ

しており、残り3文字がPR1またはPR2（センター4階オープン端末室のみ2台ある）に統一されています。

場 所	プリンタ機番	場 所	プリンタ機番
オープン端末室	CPR1、CPR2	病院地区端局	GPR1
六本松地区端局	HPR1	文系地区端局	FPR1

7. 日本語処理システムODMの講習会開催について

情報処理教育センターでは日本語処理システムODMを昭和61年11月から提供します。ついては下記の要領でODMの講習会を開催します。受講希望者は、情報処理教育センター受付（内2657）にお申し込みください。なお、この講習会は九州大学大型計算機センターとの共催です。

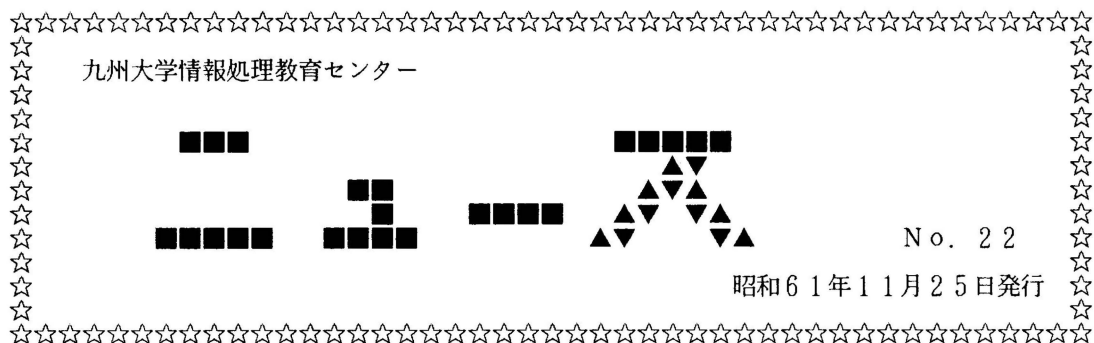
記

- ・日 時 11月20日（木） 10時～15時30分
- ・対 象 情報処理教育センターの利用資格がある教職員
- ・募集人員 20名 （大型計算機センターで別途20名募集）
- ・内 容 大型計算機による日本語処理機能の講習と実習
- ・会 場 九州大学情報処理教育センター4階講義室
- ・テキスト センターで用意
- ・時間割り 10:00 12:00 13:30 15:30

講習・実習	昼休み	講習・実習
-------	-----	-------

- ・申し込み期限 11月12日（水）（なお、募集定員に達し次第締め切ります。）

このセンターニュースはODMで作成し、オフィスプリンタに出力したものです。



1. マニュアルの電子化について

計算機のマニュアルをデータセットとして準備する計画が進行しています。その一環として次のマニュアルが電子化され、エラーコードをキーとして検索できるようになりました。

- ・ OSIV FORTRAN 77メッセージ説明書 (70SP-5310-1)
- ・ MSPシステムメッセージとシステムコード (78SP-1022-2)

まだ試験的に提供されているもので、最終的にどのような形態で提供されるか明確ではありませんが、試用していろいろご意見をお寄せいただけたら幸いです。

使用方法是以下の通りです。

(a) 機能

計算機のメッセージIDやエラーコードに対応する説明を日本語で表示する。

(b) コマンド形式

コマンド	オペランド
MSG	メッセージID コード

オペランドの説明

- (1) メッセージID : メッセージID (例えばJZK424I-S) を指定する。
- (2) コード : 完了コード (ABEND CODE) などを指定する。

メッセージIDの指定の仕方は計算機システムから表示された通りでよいが、若干の例外があるので「(d) 使用上の注意」を参照されたい。

(c) 使用例

- (1) FORTRANプログラム翻訳時に出力されたメッセージJZK424I-Sの説明を表示する。

```
READY
EDIT EXAMPLE.FORT77
EDIT
LIST
00010      RAED *,A      ..... READのつづりが間違っている。
00020      END
KEQ52500I END OF DATA SET
EDIT
RUN ..... 実行する。
FORTRAN 77 COMPILER ENTERED
FORTRAN 77 ERROR MESSAGES: PROGRAM NAME(MAIN ), FLAG(1), OPTIMIZE(2)
JZK424I-S LNO:00000010      INVALID SYNTAX ..... 10行目で文法エラーが起こる。
END OF COMPILATION
EDIT
MSG JZK424I-S ..... J Z K 4 2 4 - I の意味を表示する。
```

```
J Z K 4 2 4 I - S
i s n THE STATEMENT CANNOT BE CLASSIFIED.
短文: INVALID SYNTAX
[メッセージの意味]
これはFORTRANの文とはみなせない。
EDIT
EDIT
```

- (2) 完了コード322の意味を表示する。

```
READY
MSG 322

3 2 2
[コードの意味]
ジョブステップの使用したCPU時間がEXEC文のTIMEパラメタの値を超えた
. あるいはジョブの使用したCPU時間がJOB文のTIMEパラメタの値を超えた。
[システムの処理]
ジョブステップを異常終了させる。JOB文のTIMEパラメタの値を超えたときに
はジョブを終了させる。
[プログラマの処置]
プログラムの処理時間に見合う時間をTIMEパラメタに指定する。
READY
```

(d) 使用上の注意

- (1) 検索対象のマニュアルは現在次の通りである。
- ・ OSIV FORTRAN 77メッセージ説明書 (70SP-5310-1)
 - ・ MSPシステムメッセージとシステムコード (78SP-1022-2)
- (2) メッセージがない場合はその旨表示されるので、そのときは従来通りマニュアルを見る。
- (3) 表形式のものは表示できないものがあり、その旨メッセージで表示される。
- (4) メッセージIDが空白を含んでいる場合は'-'を挿入する。

例 JXA210I ZO → JXA210I-ZO

(5) メッセージが - で終わっているものは - を取り除いて指定する。

例 JFA505A - → JFA505A

(6) 同一メッセージIDのものが複数あるときは連続して表示する。

(7) 実行時にメッセージIDが合成されて決まるものは表示できない。

例 DM000(ユーザコード) → DM000

(8) このコマンドはまだ試験的に提供されているもので、最終的にどのような形態で提供されるか明確ではない。

2. FORTRANプログラム実行時メッセージの日本語化について

先のセンターニュースでもお知らせしましたが、メッセージの日本語化の第一段として、FORTRANプログラム実行時のメッセージ（一部分を除く）を日本語で表示するように変更します。先述のMSGコマンドと併用すればFORTRANに関してはエラーメッセージのマニュアルは必要なくなると思われます。

READY
EDIT EXAPMLE.FORT77

EDIT
LIST 整数を読み込んで印刷するプログラム。

00010 READ(5,*) I
00020 PRINT *, 'I=', I
00030 END
KEQ525001 END OF DATA SET
EDIT

RUN 実行する。
FORTRAN 77 COMPILER ENTERED
END OF COMPILATION
00010 ?

AA 本来は整数を入力しなければならないが文字AAを入力する。
JZL215I-W 00010 (リスト指示READ文) 入力欄の整数型データまたは実数型データに10進数字でない文字Aがあります。 エラーメッセージが日本語で表示される。

AA
¥ この¥記号でエラーの場所を指摘している。
ERROR OCCURS AT MAIN ISN 00010 LOC 40122188 OFFSET 000188
MAIN AT LOC 40122002 CALLED FROM (0, S)
TAKEN TO (STANDARD) CORRECTIVE ACTION, EXECUTION CONTINUING
00010 ?

12 今度は整数を入力する。

I=12 正常に出力された。

ERROR SUMMARY (FORTRAN77)
ERROR NUMBER ERROR COUNT
215 001
END OF GO, SEVERITY CODE=4
EDIT

3. ANALYST講習会の開催について

標記講習会を下記の要領で開催します。受講希望者は、情報処理教育センター受付（内2657）にお申し込みください。

ANALYSTとは富士通が提供している統計データ処理パッケージの名前で、このパッケージを使用すると、利用者が収集したデータを簡単に解析することができます。類似のソフトウェアパッケージにSASなどがあります。特徴としては、見出しを日本語で表示できることや、解析結果をレーザービームプリンタに円グラフ、折れ線グラフ等の種々の形式できれいに印刷できることなどがあります。

なお、この講習会は九州大学大型計算機センターとの共催です。

記

- ・日 時 12月26日（金） 10時00分～15時00分
- ・対 象 情報処理教育センターの利用資格がある教職員およびプログラム相談員
- ・募集人員 20名 （大型計算機センターで別途20名募集）
- ・内 容 ANALYSTの使用方法的解説と実習
- ・会 場 九州大学情報処理教育センター4階講義室
- ・テキスト センターで用意
- ・時間割り 10:00 12:00 13:00 15:00

講習・実習	昼休み	講習・実習
-------	-----	-------

- ・申し込み期限 12月19日（金） （なお、募集定員に達し次第締め切ります。）

このセンターニュースはODMで作成し、オフィスプリンタに出力したものです。

- (2) プリンタ機番 : 出力したいオフィスプリンタの機番を指定する。機番と場所の関係は「利用の手引」の7ページ「3. データセットの印刷」を参照されたい。

(c) 使用例

- (1) 順データセットEXAMPLE, FORT77をオフィスプリンタCPR1（オープン端末室）に印刷する。

```
READY
OPR EXAMPLE, FORT77 CPR1
READY
```

- (2) 区分データセットEXAMPLE, FORT77のメンバーPROGをオフィスプリンタHPR1（六本松地区端局）に印刷する。

```
READY
OPR EXAMPLE, FORT77(PROG) HPR1
READY
```

(d) 使用上の注意

- (1) 印刷はソースプログラムやデータなどエディタで文字として見ることができるデータセットに限る。
- (2) 漢字が含まれているデータセットも印刷することができる。
- (3) 1行が80文字より長いときは次の行に折れ曲がって印刷される。またデータセットの内容は1ページに56行印刷される。

(2) STINGYコマンド

(a) 機能

データセットの内容を左右2段の袋綴じの形式で印刷する。

(b) コマンド形式

コマンド	オペランド
STINGY	データセット CPR1 CPR2 FPR1 GPR1 HPR1 DSPrint (プリンタ機番)

オペランドの説明

- (1) データセット : 印刷したいデータセット名を指定する。
- (2) CPR1 | CPR2 | FPR1 | GPR1 | HPR1 : オフィスプリンタに印刷したい時そのプリンタの機番を直接指定する。

- (3) D S P r i n t (プリンタ機番) : オフィスプリンタに印刷したい時そのプリンタの機番を指定する。

機番と場所の関係は「利用の手引」の7ページ「3. データセットの印刷」を参照されたい。

(c) 使用例

- (1) 順データセットEXAMPLE, FORT77をオープン端末室のオフィスプリンタ (C P R 1) に出力する。

```
READY  
STINGY EXAMPLE, FORT77 CPR1  
READY
```

- (2) 区分データセットEXAMPLE, FORT77のメンバMEMを六本松地区端局のオフィスプリンタ (H P R 1) に出力する。

```
READY  
STINGY EXAMPLE, FORT77(MEM) HPR1  
READY
```

(d) 使用上の注意

- (1) 他のコマンドの形式と合わせるために、オペランドD S P r i n tは昭和62年3月末で削除する予定。なるべくオフィスプリンタの機番を直接指定すること。
- (2) 入力データセットの編成、レコード形式に制限はない。
- (3) 55文字/1行。1行がこれより長い場合は次の行へ折れ曲がって印刷される。
- (4) オフィスプリンタの機番はオペランドD S P r i n tで指定するよりも直接指定したものが優先される。

2. 講義・実習計画書の提出について

今年も講義・実習計画書を提出していただく時期になりました。つきましては、来年度（前期、後期）の計算機利用計画がありましたら、講義・実習計画書（センター受付にて配布）に御記入の上、来る12月19日（金）までに本センター受付にて提出して下さるようお願いします。

センターでは、提出された計画書に基づいて利用時間表を次の方針で編成します。

- (1) 前年度と同じ授業科目で、来年度も同じ時間帯を希望する場合はこれを優先する。
- (2) 来年度より新たに開講する授業科目については、出来る限り希望にそうように努力するが、時間帯が競合する場合、あるいは計算機にかかる負荷から判断して同時には行えない講義が重なる場合等は当該部局と調整を行う。

また次の点については是非ご理解とご協力をお願いします。

- (1) 授業担当教官が当該学科の所属でない場合には、原則として授業を開講している学科から計画書を提出して下さい。

(2) 講義室、実習室の割り当ては、実施する授業の形態と受講学生数に左右されますので、計画書にはとくに明確にお書きください。特に最近は必修になっている授業科目が増えていますが、複数学科の合同授業などで各部屋の定員を超過しないように十分ご注意ください。各部屋の定員は次の通りです。

部 屋	端末台数	椅子の数
センター講義室	4 0 台	8 0 脚
センター実習室	2 0 台	4 0 脚
六本松地区端局	4 0 台	8 0 脚
病院地区端局	1 6 台	3 2 脚
文系地区端局	4 0 台	8 0 脚

なお、毎年、講義数や受講者数が増加していますので、必ずしもご希望どおりの割り付けができない場合もありますのでご了承ください。不明な点や詳しいことは情報処理教育センターまでお問い合わせください（内線2 6 5 7、2 6 5 1）。

また情報処理教育センターを利用して授業を行いたい、時間割りの都合であきらめておられる方があったら特にその旨情報処理教育センターあてにご連絡ください。

このセンターニュースはODMで作成し、オフィスプリンタに出力したものです。

昭和61年12月 4日発行

2. UTILISPの提供開始について

昭和61年12月から富士通版のUTILISPを提供します。富士通版のUTILISPを使用する場合は以下の例に示すようにUTILISPコマンドを使用してください。また詳しいことは備え付けのマニュアルを参照してください。

ところでセンターではこれまで東京大学の和田英一教授から提供していただいたUTILISP（東大版と呼ぶ）を非公式に提供していました。従来通り東大版のUTILISPを使用する必要がある人はUTILISP T コマンドを使用してください。ただしこちらについてはこれまで通り積極的なサポートは行いませんので、できるだけ富士通版のUTILISPを使用するようにしてください。

```
READY
UTILISP ..... UTILISPを起動する。
      ↓富士通版Utilispです。
> (+ 1 2 3) ..... S式を評価する。>はUTILISPのトップレベルループのプロンプト。
6
> LIST FILE LISP ..... 先頭に空白を1文字つけるとTSSコマンドが実行できる。
KEQ528001 JX12345. FILE LISP
      ; <--- COMMENT MARK
      (DEFUN EX1 ()
        (PRIND 'LISP)
      )
KEQ528021 END OF DATA
> (EXFILE "FILE LISP" T) ..... 外部ファイル中の全S式を評価する。示フラグを指定する
EX1 ..... EX1という関数が評価された。
NIL
> (PP EX1) ..... PP (Pretty Print) コマンドによってEX1の関数定義を表示する。
(DEFUN EX1 NIL (PRIND 'LISP))
NIL
> (EX1) ..... 関数を実行する。
LISP
NIL
> (EX2) ..... 未定義の関数を実行する。

@@@ UNDEFINED FUNCTION .....@@@はエラーメッセージを示す。
EX2 -- EX2
@ (TOPLEVEL) ..... ブレークルーチンから抜け出すために(TOPLEVEL)を実行する。
      @はブレークルーチンのプロンプト
> (QUIT) ..... UTILISPの終了。
READY
```

UTILISPから抜け出せなくなったときはアテンションキー（PA1キー）を10回以上押す。